

実践前後によるアンケート結果の分析

近藤(2013)が開発した自尊感情の測定尺度「そばセット (SOBA-SET) 」で社会的自尊感情 (SOSE) と基本的自尊感情 (BASE) を実践の前後で測定した (それぞれの内容は表1を参照) 。またSOSの出し方が定着したかを確認するために、「誰でもこのころの調子が悪くなると思います」「このころの調子が悪くなっても、助けを求めることができれば回復することができると思います」「まわりの人の心の調子が悪くなったとき、自分に出来ることはあまりないと思います」の3つの質問を4件法 (とてもそう思う、そう思う、そう思わない、全然そう思わない) で尋ね、実践の前後で比較した。

表1 社会的自尊感情と基本的自尊感情の説明 (近藤(2013)を参照し作成)

社会的自尊感情 (SOSE)	基本的自尊感情 (BASE)
・ 認められ、見つめられることによって膨らむ。熱気球のように。 ・ 他者との比較による相対的な優劣による感情	・ 体験と感情を共有することの繰り返しで形成。和紙を重ねていくように。 ・ 比較ではなく絶対的な無条件の感情。

実践前のアンケートは回答者が121名 (有効回答数106名) 、実践後のアンケートは回答者が127名 (有効回答数113名) であった。有効回答数が少ない理由は、そばセットの結果から回答の信頼性が低いと判断された回答を除外したためである。

社会的自尊感情の平均値は実施前が15.21点、実施後が15.36点となりほとんど変化は見られなかった。基本的自尊感情の平均値は実施前が19.59点、実施後が19.69点となりほとんど変化は見られなかった。

SOSの出し方についての知識が定着したかについて、実践前後で回答傾向に差があるかどうかカイ二乗分析を行ったところ、図1のように「このころの調子が悪くなっても、助けを求めることができれば回復することができると思います」の設問のみ、とてもそう思うと答えた生徒が有意に増加していた ($\chi^2 (3, N=243)=8.74, p<.05$) 。

実践後の質問紙では「今日の講座で新しく学んだこと、印象に残ったことがあったら教えてください」という設問で自由記述式で回答を求めた。55名の生徒から、「辛いときもまわりの人に相談すれば、少し心がかかることを知った」、「命は大切だと知った」、「何かあったら相談することが大切だと思った」、「今日の講座でSOSの時の対処方法とかがわかったので良かったです。」、「そうだんできるところがあんなにあるとはおもわかった」といった講座の目的を理解できたという内容の感想が記入されており、一定の成果を挙げたといえるものであった。

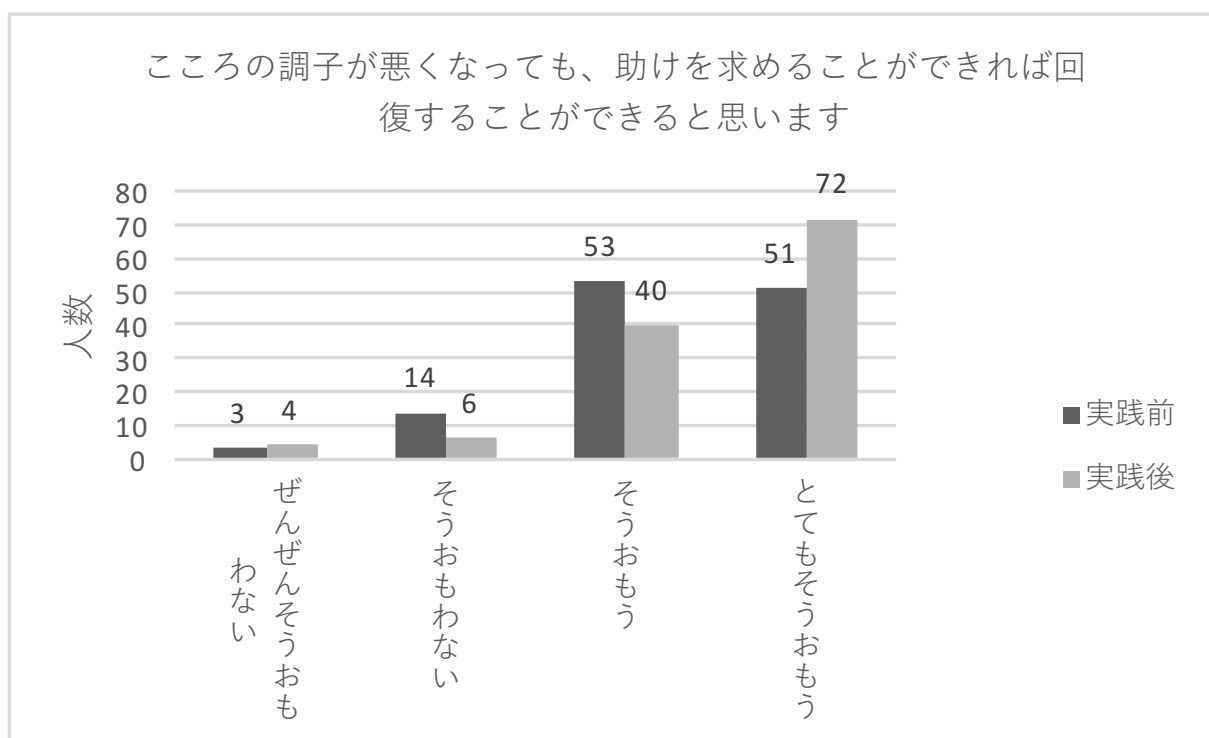


図1 設問「こころの調子が～」の実践前後の変化